

人権・同和問題の解決に向けて

輝く未来

(資料編)



第五次輝く未来計画 (栗東市人権・同和教育推進5ヵ年計画) 2021-2025

栗東市では、「一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち」をめざして、「第五次輝く未来計画」を「栗東市人権擁護に関する条例」のもと策定しました。

認め合おう お互いを
広げよう つながり
を
深めよう 学びを

めざす姿



「第五次輝く未来計画」データはこちら



一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、
差別や偏見のない住みよいまち



人権・同和教育啓発の合言葉

一人ひとりがまず一歩！差別を「なくす」行動を！

この資料は、人権週間（12月4日～12月10日）の機会に、市民のみなさんに、人権について考えていただくことを目的に作成しています。

「人の世に熱あれ、
人間に光あれ。」

聞いたことがありますか？

聞いたことがある、
知っている

見開きの次ページへ！

聞いたことがない、
知らない

知らない

「水平社宣言」

知っていますか？

知っている

さらに詳しく水平社運動について考えてみよう！（見開きの次ページへ！）

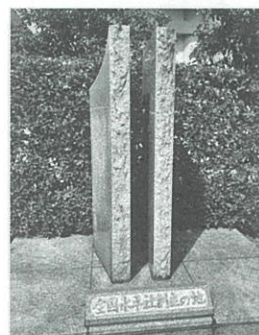
～先人たちの熱い思いを引き継ごう～

2022年3月3日に、「全国水平社」創立100周年を迎えます。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」

1922年3月3日、京都の岡崎公会堂で、被差別部落の人々の解放をめざして「全国水平社」の創立大会が開催されました。

この言葉は、創立大会で宣言された「全国水平社宣言（水平社宣言）」の最後の一節です。すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現を願う気持ちが、この宣言に込められています。



(左)
現在の京都会館内に
建つ記念碑



(右)
京都市
岡崎旧公会堂正面



「水平社宣言」について

この宣言には、「人間はいたわるべきではなく、尊敬すべきものである」という精神に立ち、被差別部落の人々だけでなく、差別に苦しむすべての人々の解放への思いが込められています。

差別されてきた被差別部落の人々が人間の権利と尊厳を獲得し、自らの力と団結によって解放をめざすことを謳った「日本ではじめての人権宣言」といわれています。

(裏面に要約文を掲載しています。ご覧ください。)

部落差別（同和問題）を解消するために

「あそこは同和地区だから…」 「あの人は部落出身だから…」 などと言われて結婚を妨げられたり、差別発言や差別落書きがされたりするなどの事案が今もなお起こっています。

本市では、各自治会で「地区別懇談会」を実施したり、「人権尊重と部落解放をめざす市民のつどい」を開催したりするなど、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消と人権が尊重されたまちづくりに向けて、取り組みを進めています。

人権・同和教育啓発の合言葉

**一人ひとりがまず一歩！
差別を「なくす」行動を！**



「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」と結ぶ水平社宣言は、わが国はじめての人権宣言といわれています。

水平社宣言（要約文）

全国各地にちらばっている、被差別部落の仲間たちよ、団結しよう。

長い間、いじめられてきた仲間たちよ、明治になって50年の間、さまざまな方法と、多くの人々によってなされた私たちのための運動は、何のありがたい効果もたらさなかった。それは、そのすべてが、私たち自身が、また他の人々が、つねに人間を侮辱してきた罰だったのだ。これまでなされてきた、人間を軽んじ、憐れむような運動は、逆に多くの被差別部落の兄弟の思いを墮落させてきた。このことを思えば、今、私たちの中から、人間を尊敬することによって、私たち自身を解放するため、自らの自由と平等をもとめる集団運動を起こすことは、当然のことである。

仲間たちよ、私たちの祖先は自由と平等を心から求め実行してきた者だった。厳しい支配政策の犠牲者であり、たくましく社会や文化を支えてきた者であったのだ。しかし、ケモノの皮をはいたことで、周りの人から優しいまなざしを奪われた。ケモノの心臓を裂いた代わりに私たちは、暖かい人間の心を引き裂かれた。そこへあざけりと、くだらない唾まで吐きかけられたのだ。だが、私たちの中には、なお誇りある人間の血が、枯れずに流れていたのだ。そして、私たちはその血を受け継ぎ、人が神のように大切にされる時代に会ったのだ。その犠牲者の我々が差別を投げ返す時がきたのだ。殉教者キリストのように、荊（いばら）の冠（かんむり）を祝福される時が来たのだ。

我々が差別を受けてきた者であることを誇りうる時がきたのだ。

私たちは、自分自身をいやしくする言葉や、臆病になったりして、祖先をはずかしめたり、人間自身をおとしめたりしてはならない。人の世がどんなに冷たいか、人間を大切にすることが本当はどんなことであるかをよく知っているからこそ、私たちは、心から人生の熱と光を求め、その実現をめざすのである。

水平社はこのようにして生まれた。
人の世に熱あれ、人間に光あれ。

（出展：大分県教育委員会 部落問題学習推進のための指導資料「水平社宣言より学ぶ」より）

今もなお、部落差別にかかわる偏見や差別意識が根強く存在しているのよ！



全国水平社創立100年という節目の年に、今一度、水平社運動について考えてみよう！

自由と平等を求めた先人たちの思いを受け継ぎ、歴史的に作り出された未だ解決されていない部落差別問題に対して、学び、考え、差別解消をめざして行動していきましょう！